令和７年８月２１日	
横浜市公立大学法人評価委員会	
資料２－１	

令和6年度
公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果
（原案）

横浜市公立大学法人評価委員会

令和７年８月

目　次

＜ 公立大学法人横浜市立大学の法人評価の概要 ＞ …… 1

＜ 令和６年度の業務実績評価 ＞ …… 2

１　評価概要 …… 3
２　項目別評価
Ⅰ　教育 …… 5
Ⅱ　研究 …… 8
Ⅲ　医療 …… 10
Ⅳ　法人経営 …… 12
Ⅴ　自己点検及び評価 …… 16
Ⅵ　地域貢献（横断的項目）…… 16
Ⅶ　グローバル展開（横断的項目）…… 17

参考資料：法人による自己評価 …… 18

＜公立大学法人横浜市立大学の法人評価の概要＞

公立大学法人横浜市立大学（以下「法人」という。）は、市会の議決を経て、市が定めた中期目標の達成に向け、法人自らが策定した中期計画や年度計画※ に基づいて、自主自律的な大学運営を推進する。また、法人は中期目標期間及び各事業年度における業務の実績について、横浜市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）の評価を受ける。

評価委員会は、中期目標期間並びに各事業年度における評価に当たって、中期計画や年度計画の実施状況を調査及び分析し、その結果を考慮して総合的な評価を行う。また、その評価結果を法人に通知するとともに、市長へ報告し、公表する。報告を受けた市長は、評価結果を市会へ報告する。

※ 令和５年６月の地方独立行政法人法の改正により、公立大学法人における法定上の年度計画及び年度評価は廃止されたが、横浜市立大学においては、PDCA サイクルとしての有用性等から、引き続き、年度計画の策定及び年度評価を実施することとしている。

■ 評価の種類

(1) 年度評価：各年度計画の実施状況を確認すること等により、業務の実績について評価を行う。

【評価の視点】

・評価を通じて改革のための取組を積極的に支援すること。

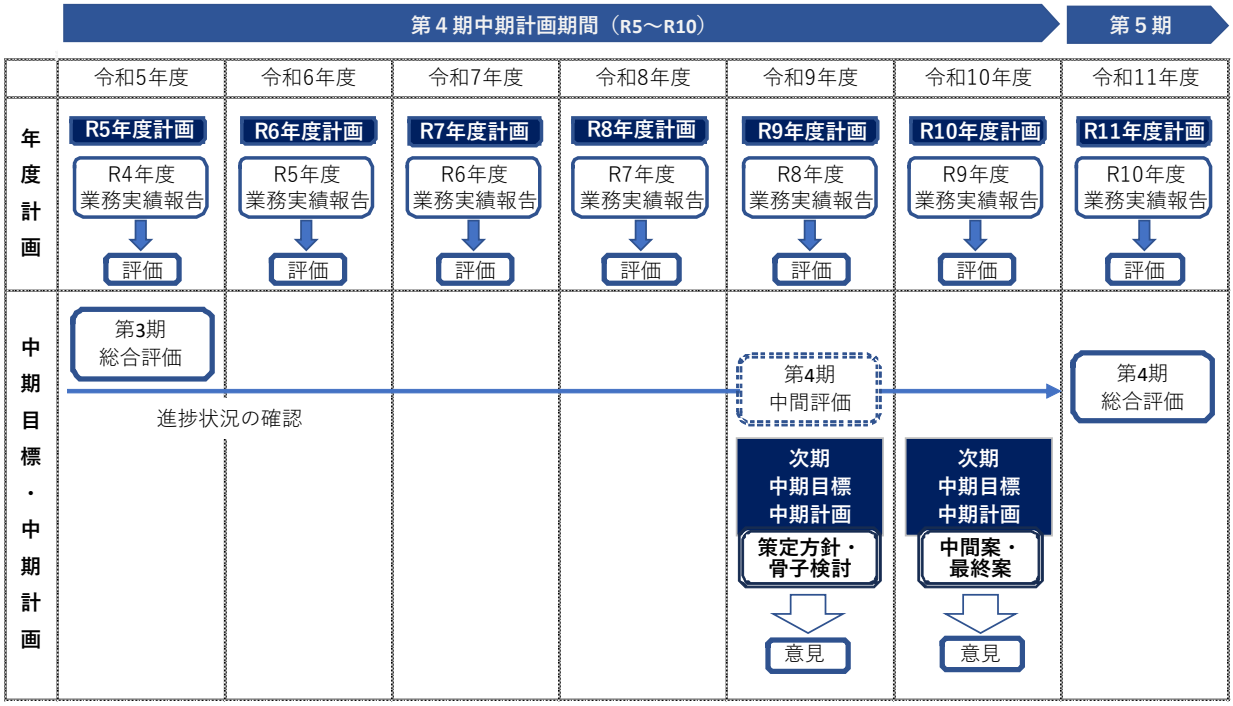
・組織、業務等について、改善の方法等を明らかにすること。

(2) 中間評価：中期目標期間（６年間）の４年目終了時に、中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績についての中間評価（みなし評価）を行う。

【評価の視点】

・次期中期計画の策定に向けて、法人が業務運営の改善に適切に反映するための評価であること。

(3) 総合評価：中間評価の結果や、評価委員会において指摘された留意点等を踏まえ、中期目標期間における総合的な評価を行う。



■ 評価委員会委員

第 11 期委員（任期：令和 7 年 2 月 27 日～令和 9 年 2 月 26 日）

委員長	板東 久美子	元文部科学審議官
委　員 (50 音順)	今市 涼子	学校法人日本女子大学理事長
	大塚 篤	公認会計士
	小峰 直	横浜商工会議所副会頭
	山本 修一	独立行政法人地域医療機能推進機構理事長

■ 評価委員会開催実績（令和７年度）

5 月 12 日、7 月 7 日、8 月 21 日 （計 3 回開催）

＜令和６年度の業務実績評価＞

■ 評価の方針

第 4 期中期目標期間（令和 5 年度～令和 10 年度）の 2 年目となる令和 6 年度の業務実績について、評価委員会は主として次のような方針に基づいて評価を行った。

(1) 令和 6 年度の業務実績評価に当たっては、第 4 期中期目標、第 4 期中期計画の達成に資するよう、計画の進捗状況を書面及びヒアリング等により確認し、総合的な評価を実施するとともに、市民に分かりやすく公表する。

(2) 法人の質的向上に資するよう、意欲的な取組を積極的に支援するほか、専門的観点から課題点を指摘するとともに、過去の指摘事項が大学運営に的確に反映されているかを確認する。

(3) 自主的･自律的な大学運営の実現を目指し、法人全体の組織･業務等の改善･充実を図る観点から、目標設定の妥当性についても検討し、必要に応じて計画の修正を求める。

■ 評価の基準

法人から提出された令和 6 年度の業務実績報告書等に基づき、評価委員会は書面審査及びヒアリングを実施し、各項目に沿って調査・分析の上、総合的に次の 5 段階による評価を行った。

Ｓ： 計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある
Ａ： 計画を上回って実施している
Ｂ： 計画どおり実施している
Ｃ： 計画を十分に実施していない
Ｄ： 重大な改善事項がある

1　評価概要

令和６年度の総評

第４期中期計画の２年目となる令和６年度は、教育、研究、医療、法人経営等のそれぞれの分野で、計画に基づく具体的な取組が着実に進展していると認められる。

教育については、理系人材育成に向けた定員増や、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING 事業）による大学院博士後期課程の学生支援、学修者中心の教育改革など、社会的要請に応える施策が展開されている。特に、データサイエンス分野の強化や、FD※1・SD※2の連動による教育改善は、今後の更なる発展が期待される。

研究については、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（J-PEAKS）や、「共創の場形成支援プログラム」（COI-NEXT）などの国の主要事業の採択を通じて、オープンイノベーションの推進や学際的研究の展開が進められている。研究施設の整備やベンチャー創出など、社会実装に向けた取組も成果を上げており、研究力強化に向けた全学的な努力が評価される。

医療については、地域医療の担い手として、救急医療や不妊治療への対応、高度救命救急センターとしての機能発揮など、質の高い医療提供が継続されている。附属病院間の連携強化や診療報酬の確実な請求など、経営改善に向けた具体的な取組も進展している。

法人経営については、理事長直轄の監査室設置や内部通報制度の整備など、ガバナンス強化の基盤が整備された点は評価できる。一方で、法人として、経常収支で昨年度に引き続き赤字決算となったことも踏まえ、収支改善は喫緊の課題である。病院部門では収支均衡に向け、改善の取組が進められているが、大学部門では外部資金の獲得が前年度比減・予算比未達となっており、インフレによる経費増への対応も含めた戦略的な施策が求められる。

今後の収支改善に向けては、中長期的な収支・資金・投資計画の策定をはじめ、細分化された指標の設定、人件費比率の改善、委託業務の見直し、修繕計画の精査など、費用削減に向けた具体的な施策を講じる必要がある。加えて、外部資金の獲得や業務の効率化等、収入・支出両面からゼロベースでの見直しを行い、経営努力を一層強化することが求められる。

昨今の物価高騰や診療報酬の動向等の影響により、全国の大学及び大学病院の経営環境は、一層厳しさを増している。本法人においても、教育・研究・医療の維持・向上を図るための安定的な財源の在り方について、社会的動向や他機関の取組も参照しつつ、幅広い視点からの検討が強く求められる。

※1　FD（Faculty Development）：授業方法、内容を改善、向上させるための組織的な取組
※2　SD（Staff Development）：教職員の職能開発のための組織的な取組

令和６年度の評価一覧

項目 ＼ 評価		S 計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある	A 計画を上回って実施している	B 計画どおり実施している	C 計画を十分に実施していない	D 重大な改善事項がある
Ⅰ　教育	1　新たな時代を見据えた教育の提供			○		
	2　5学部6研究科における教育の充実		○			
	3　時代に即した学修環境・学生支援の提供			○		
	4　多様で優秀な人材の獲得と輩出			○		
	5　社会人の学び直し			○		
Ⅱ　研究	1　先進的・学際的研究等の推進			○		
	2　オープンイノベーションの推進	○				
	3　研究基盤の強化及び支援体制の整備			○		
Ⅲ　医療	1　患者本位の医療の提供と患者安全の取組			○		
	2　質の高い医療の提供		○			
	3　政策的医療への貢献、地域医療の推進		○			
	4　明日を担う質の高い医療人材の育成と活用			○		
Ⅳ　法人経営	1　経営改革を強力に推進するガバナンスの強化			○		
	2　不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保				○	
	3　コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立			○		
	4　教職員エンゲージメントの向上			○		
	5　YCUの価値向上			○		
	6　課題解決を目指した地域社会との協働の推進			○		
	7　医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進		○			
	8　環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり			○		
Ⅴ　自己点検及び評価				○		
Ⅵ　地域貢献（横断的項目）			○			
Ⅶ　グローバル展開（横断的項目）				○		

２　項目別評価

Ⅰ　教 育

１．新たな時代を見据えた教育の提供　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・横断的教育やグローバル教育の充実が図られていることを評価する。

・AI の活用が進む今、社会から求められている研究倫理教育を充実している点を評価する。

（更なる充実が期待される点）

・IR※1 と FD※2・SD※3 の連動を図っていることは注目に値し、看護学科では受講率 100%を達成していることから、さらに高い受講率を全学的に実現することが期待される。

・時代に即した教育としての、領域横断型プログラムの修了者数増加が期待される。

※1　IR（Institutional Research）：計画立案、政策形成及び意思決定等のサポートをするために必要な「情報提供」を目的とした、学内外データの収集・分析機能

※2　FD（Faculty Development）：授業方法、内容を改善、向上させるための組織的な取組

※3　SD（Staff Development）：教職員の職能開発のための組織的な取組

２．５学部６研究科における教育の充実　【評価】 Ａ

（優れた点・特色ある点）

・学生の確保が難しくなってくる時代であり、理系人材の不足も懸念される中、社会の要請に応え、理学部（令和 8 年度）、データサイエンス学部（令和 9 年度）及び研究科（令和 7 年度）の定員増に向けた取組を計画的に進めており、教育体制の整備が着実に進行していることを高く評価する。

・理学部の定員増を決定したことは、教職協働による円滑な運営がなされている結果と評価する。

・共通教養教育に加え、各学部においてもデータ関連教育の充実が図られており、社会課題に対応できる人材育成に資する内容となっている。

・学修者に寄り添った教育改革が進展しており、大学院博士後期課程において、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING 事業）などを通じた支援体制が充実しており、学生満足度の向上にも寄与していることを評価する。

（更なる充実が期待される点）

・理学部の定員増は意欲的な試みと考える。あわせて、理系分野の女子学生の更なる増加にも取り組むことを期待する。

３．時代に即した学修環境・学生支援の提供　【評価】 B

（優れた点・特色ある点）

・学生の経済状況アンケートを踏まえた経済支援策の検討や「食の支援」など、経済的な課題を抱える学生への支援を推進していることを評価する。

・学生が行う目標設定や学習成果等の可視化により、学修者自身が主体となる勉学が可能となった。学修支援コンテンツとしての動画や資料のブラッシュアップも、学生にとって大変有効である。

（更なる充実が期待される点）

・学生の定期健康診断受診率の向上が期待される。

・経済的な要因による学修からの離脱を最小限に抑えるための丁寧な対応が期待される。

・今後、経済的な要因以外の面で困難を抱える学生への支援や、LGBTQ については施設整備の対応も必要と考える。

４．多様で優秀な人材の獲得と輩出　【評価】 B

（優れた点・特色ある点）

・受験者数や交換留学生数の増加、高い就職率の維持を実現している。

・低学年からのキャリア教育や留学生の就職支援、博士課程学生のキャリア支援など、取組を広げていることを評価する。

・留学生就職支援教育プログラム認定制度など、外国人留学生への就職支援は高く評価できる。

・前年度を上回る志願者を獲得したことを評価する。

・キャリア支援において、定量項目をすべて達成した。

（更なる充実が期待される点）

・博士後期課程の学生へのキャリア支援の強化は、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING 事業）の活用などが行われているが、更なる強化が望まれる。

・高大連携事業におけるオンラインを活用したプログラムについては、参加者が増える取組を期待する。

（改善すべき点）

・より優秀な学力層の学生獲得についての取組とその評価については、具体的な成果を示されたい。

５．社会人の学び直し　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・定量的指標に関する各取組を着実に実行している。

・企業から協賛金を募集して行ったアドバンストエクステンション講座は、参加者の満足度も高く、デジタル人材育成への横浜市立大学の寄与を目的とするものとして評価できる。

（更なる充実が期待される点）

・今後、より一層の企業等との連携の強化によるリカレント・リスキリングの取組の充実や、リカレント教育における受講者数の増加が図られることを期待する。

Ⅱ　研 究

１．先進的・学際的研究等の推進　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・産学連携による新規研究プロジェクト等の戦略的な取組が進められている。

（更なる充実が期待される点）

・臨床研究については、次世代臨床研究センターの体制強化による拡充発展を期待する。

・病院の経営環境が悪化していることについては理解できるが、大学病院として本来果たすべき、研究の推進という使命を見失うことなく、経営と研究の両立を図り、バランスの取れた運営がなされることを期待する。

（改善すべき点）

・主要な学術誌等に掲載された論文数に対する Top10%論文の割合が、計画通りに推移していない状況にあるが、改善に向けた措置が取られており、今後の成果に注目したい。

２．オープンイノベーションの推進　　【評価】 Ｓ

（優れた点・特色ある点）

・オープンイノベーション研究施設が竣工し、実質的な活動が可能になること、さらに「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（J-PEAKS）の採択に至ったことを高く評価する。

・ベンチャー創出累計数が指標を上回り、研究成果の社会実装が進んでいる。

（更なる充実が期待される点）

・新設の共創イノベーションセンター等を十分に活用し、オープンイノベーションの本格的な推進を期待する。

・研究活性化に向け、全学的取組の更なる推進を期待する。

３．研究基盤の強化及び支援体制の整備　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・科研費採択件数、獲得金額ともに、概ね計画通り達成している。

（更なる充実が期待される点）

・科研費の採択状況は順調であるが、より学際的な研究や大規模な研究への展開を促進するためには、支援体制の更なる充実が望まれる。

・若手研究者や女性研究者への支援、異分野融合研究の促進に向け、「学術的研究推進事業」の更なる効果向上につながる施策の充実が期待される。

Ⅲ　医 療

１．患者本位の医療の提供と患者安全の取組　　【評価】 B

（優れた点・特色ある点）

・厳しい経営環境にも関わらず、マネジメント体制の強化を進めたことは評価できる。
・病院経営は、赤字となっているものの収支は改善し、患者満足度指標もほぼ達成と評価できる水準である。
・患者本位の医療提供のために、臨床倫理課題への対応力の強化、日帰り手術等の患者ニーズへの対応が進められている。
・医療安全や病床管理の最適化についても、データ分析、チーム力を活用しながら、取組の向上が進められている。
・臨床倫理コンサルテーションチーム活動によって、臨床倫理的課題に対する適切な対応が行われた。医療の質を可視化した臨床指標の使用は重要と考える。

（更なる充実が期待される点）

・附属病院においては、「新興感染症の迅速検査及び診療体制の構築」については「検討を行った」、「計画的な施設・設備の改修」については「老朽化した設備の更新計画を作成した」に留まっており、今後の進捗を期待する。

２．質の高い医療の提供　　【評価】 A

（優れた点・特色ある点）

・医療を取り巻く環境がより厳しくなる中、社会の要請に的確に応えていることを評価する。
・附属２病院とも、高い手術件数と救急応需率を達成し、特に救急応需率は、過去５年間において最多件数となった。
・医師少数地域の医療機関支援として、遠隔 ICU※1 による国際医療福祉大学病院（那須塩原市）との連携を実現したことを高く評価する。
・SD※2 評価に臨床研究を加えるなど、研究者のモチベーション向上に努めた。

※1 遠隔 ICU：集中治療専門の医師等がネットワーク通信を利用して複数の集中治療室の医療情報を集約し、患者モニタリングや遠隔地から現場の医師等へのサポート等を行う
※2　SD（Staff Development）：教職員の職能開発のための組織的な取組

（更なる充実が期待される点）

・遠隔 ICU については、今後、一層この分野でのフロンティアとなることを期待する。
・臨床研究中核病院としての承認を目指し、一層の体制強化を期待する。

・外国人患者受入れについても、JMIP※認証を目指すなど体制整備が進められつつあり、今後の取組の進展を期待する。

※ JMIP（Japan Medical Service Accreditation for International Patients）：
外国人患者受入れ医療機関認証制度。多言語による診療案内や、異文化・宗教に配慮した対応など、外国の方々が安心・安全に日本の医療サービスを受けられる体制を整えている医療機関を認証する制度。

３．政策的医療への貢献、地域医療の推進　【評価】 Ａ

（優れた点・特色ある点）

・附属２病院ともに救急医療に積極的に取り組み、高い救急応需率を実現していること、附属市民総合医療センターにおいては、多くの不妊治療に取り組んでいることを高く評価する。
・病病連携の強化による医療機能分化の推進が図られ、地域医療機関との連携を順調に進めている点を評価する。
・新ウェブサイトの立上げ、広報機能の強化が効果を上げている。

４．明日を担う質の高い医療人材の育成と活用　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・各取組を着実に実行しており、定量的指標についても概ね計画通りである。
・看護師・コメディカルの育成・活用の強化、キャリア育成に向けた連携体制づくりを進めている点を評価する。
・研修医の指導のための教育支援体制の強化に努めている。

（更なる充実が期待される点）

・独自の看護職ジェネラリスト育成計画「YCU-N※」のような取組に倣い、コメディカル職種を対象とした育成施策の実施が進められることを期待する。

※ YCU-N：横浜市立大学が目指す看護職のジェネラリスト育成計画。５段階で構成され、３段階目までに基本的な看護の実践ができることを目指し、４段階目以降はそれぞれのニーズに応じたキャリア育成のためのプログラムを行う。

Ⅳ　法人経営

１．経営改革を強力に推進するガバナンスの強化　【評価】 B

（優れた点・特色ある点）

・各取組を着実に実行しており、定量的指標についても概ね計画通り達成している。

・理事長直轄の内部監査室の設置及び内部通報制度の創設により、ガバナンス強化の基礎が構築されたことを評価する。

（更なる充実が期待される点）

・内部監査室及び内部通報制度については、今後の機能発揮を期待する。

２．不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保　【評価】 C

（優れた点・特色ある点）

・法人として厳しい財政状況にはあるが、研究 DX における研究者データベースシステムの導入や、Web 決済システムの運用開始は評価できる。

（更なる充実が期待される点）

・寄附金などの外部資金の獲得が十分でなく、今後、創立 100 周年事業とも合わせ、理事長・学長も先頭に立ち、法人・大学全体・同窓会も含んだ幅広い取組を強化していくことを期待する。

（改善すべき点）

・令和 6 年度決算では、法人全体で経常収支で 15.2 億円の赤字、大学部門では前年度比 7 億円の収支悪化が見られ、外部資金も前年度比 3.2 億円減、予算比 1.0 億円未達となっている。法人全体では、改革推進会議の開催や AI を活用した経営改善、両病院における戦略的な経営改善の取組が進められているものの、経常利益はマイナスとなり、資金も減少している。このような状況から、大学部門も含めた多角的な課題分析と取組の強化が求められるとともに、外部資金の獲得、収入の拡大、業務効率化、経費削減など、更なる経営努力が必要である。

・寄附金獲得額の見積額については、設定方式を検討すべきである。

・AI 活用等の DX 推進については、専属担当者の設置が必要と考える。

３．コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・各取組を着実に実行し、定量的指標についても概ね計画通りである。
・コンプライアンスに関する意識啓発、通報窓口の見直し、リスク情報の収集・分析・提供などを進めていることは評価できる。
・潜在的リスクへの対応としてリスクマップの更新を行ったことは、自己点検の仕組みの体系化に有効と考える。

（更なる充実が期待される点）

・コンプライアンスやリスクマネジメントについては、データ社会の進展等の変化による新たな課題も次々生じているところであり、一層、経営の中核に位置づけて推進することが重要である。
・内部統制システムについては、ミス等の結果を共有するに留めず、統制の評価と改善を行うことが必要である。

４．教職員エンゲージメントの向上　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・男女共同参画推進、多様性を尊重した構成員支援、障害者配属、保育所利用の改善、医師の働き方改革といった様々な取組について、情報共有に留まらず、具体的に実行している。
・配偶者の出産に伴う休暇の取得率が大幅に改善した点を評価する。
・医師事務作業補助者数における指標の達成を含め、医師の負担軽減を推進したことで、年間の時間外・休日労働の上限規制を超える医師を発生させない運用ができたことを評価する。

（更なる充実が期待される点）

・配偶者の出産に伴う休暇の取得率について、目標達成に向けた更なる改善を期待する。
・看護師等の離職率の抑制に向けて、原因分析と対策の強化が望まれる。
・教職員全体のエンゲージメント指標である教職員意識調査について、当該年度の実施はなかったため、次年度に期待したい。
・ダイバーシティー推進について、方針に基づく具体的な展開や成果の見える化に期待する。

５．ＹＣＵの価値向上　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・各取組を着実に実行し、定量的指標についても概ね計画通りである。

（更なる充実が期待される点）

・創立 100 周年に向けた機運醸成はまだ緒についたばかりであるが、これは大学のプレゼンス向上や、内外のステークホルダーとの連携強化・支援拡大の好機である。この機会を十分に活かし、SNS 等を活用した広報戦略を展開することで、横浜市立大学の認知度向上や寄附金募集など、記念事業を通じた支援拡大に繋げることを期待する。

・周年事業においては、教職員や学生といった内部向けの取組の実施についても期待したい。

・定量的指標の中には、イベント開催数など企画実施数での評価に留まっている項目もあるが、定性的指標と併せて、YCU の価値向上の波及効果が視認できる指標の設定も期待したい。

（改善すべき点）

・同窓会組織との連携や広報戦略については、活動の内容及びその成果の可視化が求められる。

６．課題解決を目指した地域社会との協働の推進　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・各取組を着実に実行し、定量的指標についても概ね計画通りである。

・地域貢献センターの相談件数が増加し、認知度も高まりつつある。

（更なる充実が期待される点）

・地域貢献センターと大学をつなぐ仕組みとして、コーディネーターによる連携調整が行われているが、より効果的な運用のためには、コーディネート機能の一層の充実が望まれる。

７．医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進　　【評価】 Ａ

（優れた点・特色ある点）

・病院長のリーダーシップの下、診療報酬の適切かつ確実な請求の実施、経営指標の活用、附属２病院間での医薬品・試薬の合同入札や診療材料の共同購入など、経営改善に向けた様々な具体的取組が進められており、成果も得ていることを評価する。

・教育・研究・診療の各分野において、附属２病院と医学部における交流・連携が強化されていることを高く評価する。

（更なる充実が期待される点）

・共同化、人材育成・交流、情報共有などの面で、さらに取組が強化されることを期待する。

・再整備の基本計画策定時期が変更されているが、計画作成に向けては多角的に十分な検討が尽くされることを期待する。

・附属２病院の統合に向けたビジョンが示されることを期待する。

８．環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・留学生の増加に対応し、宿舎の確保、レジデンスアシスタントの配置、チューター（学生ボランティア）数の拡充などに着実に取り組んでおり、交流促進に向けた体制整備が進められている。

・設備機器の省エネ化も、計画通りに実施されている。

（更なる充実が期待される点）

・施設整備については、法人の収支状況を踏まえた計画的な修繕や取替更新の取組が求められる。

Ⅴ 自己点検及び評価　【評価】B

（優れた点・特色ある点）

・年度計画の自己点検・評価、必要な外部評価の実施や準備が着実に行われている。

・教職員とステークホルダーへの情報公開は大変重要であり、評価できる。

Ⅵ 地域貢献（横断的項目）　【評価】A

（優れた点・特色ある点）

・法人として高い地域貢献意識を持ち、推進体制の整備にも努めながら、社会人教育の拡充、産官学連携やオープンイノベーションの強化、地域医療ニーズへの対応や地域医療体制の充実、地域課題への対応の取組を進めていると評価できる。

・社会課題の解決を担う優秀な人材を輩出している。

・医療分野では、高度救命救急センターとしての役割を果たすとともに、地域医療機関との機能分化にも主体的に取り組んでいる。救急応需率の高水準維持や不妊治療件数の増加、医療における DX 推進など、附属２病院の地域医療への貢献は大きく、高く評価する。

（更なる充実が期待される点）

・「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（J-PEAKS）の採択は、オープンイノベーションの推進をもたらす重要な契機と考える。

・高大連携事業におけるオンラインを活用したプログラムや、リカレント教育については、参加者の増加につながる取組を期待する。

Ⅶ グローバル展開（横断的項目）　【評価】B

（優れた点・特色ある点）

・グローバル教育の充実に努め、留学生の受入れ拡大や就職支援の充実、日本人学生の海外プログラム参加の拡大が進んでいる。

・病院における外国人対応体制の強化も進められており、地域の国際化にも様々な面で寄与しているものと考えられる。

・各種留学プログラムに対する学生満足度は約 90%と高水準であり、交換留学や長期休暇を活用した短期留学・語学研修等の参加者数も、計画を上回る実績を示している。

（更なる充実が期待される点）

・国際都市・横浜としてのブランド力や、「YOKOHAMA」という国際的な知名度を、より積極的に活用し、市との連携を強化することで、外部からも認識されやすいグローバル展開施策の推進が望まれる。

・国際的で先進的な医科学研究がなされていることは評価できるが、卒業生や留学生の活躍が外部から十分に把握しづらいため、更なる情報発信の充実に期待する。

自己評価の集計結果一覧

S：計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある　A：計画を上回って実施している　B：【標準】計画どおり実施している
C：計画を十分に実施していない　D：重大な改善事項がある

大項目		中項目	【計画No.】	自己評価						
Ⅰ	教育			S	A	B	C	D	合計	自己評価
	1	新たな時代を見据えた教育の提供	【1】【2】	0	0	2	0	0	2	B
	2	５学部６研究科における教育の充実	【3】～【6】	0	2	2	0	0	4	A
	3	時代に即した学修環境・学生支援の提供	【7】【8】	0	1	1	0	0	2	B
	4	多様で優秀な人材の獲得と輩出	【9】【10】	0	0	2	0	0	2	B
	5	社会人の学び直し	【11】	0	0	1	0	0	1	B
	評価概要	・多くの指標を計画どおり達成した。 ・【5】DSリカレントプログラムの社会人受講者数等が未達成となったが、【3】文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」により、教育課程の構想検討を進め、新規教員採用及び学内公募ならびに施設改修を行い、データサイエンス学部、研究科の機能強化を着実に進めた。 ・【6】次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING事業）により、大学院博士後期課程の学生への経済的支援・キャリア形成支援を促進した。 ・新たな取組として、理学部の入学定員増員を検討し、方向性（令和８年度から理学部入学定員を120名から140名に増員）を決定した。 これらの実績から、中項目２はA評価とした。								
Ⅱ	研究			S	A	B	C	D	合計	自己評価
	1	先進的・学際的研究等の推進	【12】【13】	0	0	1	1	0	2	B
	2	オープンイノベーションの推進	【14】	1	0	0	0	0	1	S
	3	研究基盤の強化及び支援体制の整備	【15】【16】	0	0	2	0	0	2	B
	評価概要	・【12】【13】臨床研究法における臨床研究実施件数、主要な学術誌等掲載論文数、主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10％論文数等の件数は未達成となった。一方でオープンイノベーション推進による研究プロジェクトや、臨床研究ネットワークを活用した研究プロジェクトを新たに開始したほか、新規治験の受入件数は附属病院、センター病院ともに年度計画の指標を大きく上回った。この実績から、中項目１はB評価とした。 ・【14】J-PEAKSについて、令和６年度に新設した研究担当副学長のリーダーシップのもと、教職協働プロジェクトにより課題検討と体制整備を進めるとともに、ステークホルダーとの議論を経て提案内容を再定義するなど、申請初年度における指摘事項の改善を進め、採択に至った。 ・ベンチャー創出累計数が年度計画を上回る成果となった。 これらの実績から、中項目２はS評価とした。								

Ⅲ	医療			S	A	B	C	D	合計	自己評価
	1	患者本位の医療の提供と患者安全の取組	【17】～【20】	0	2	6	0	0	8	B
	2	質の高い医療の提供	【21】【22】	0	2	2	0	0	4	A
	3	政策的医療への貢献、地域医療の推進	【23】【24】	0	2	2	0	0	4	A
	4	明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	【25】	0	0	2	0	0	2	B
	評価概要	・多くの指標を計画どおり達成した。 ・【21】救急応需件数は、附属病院・センター病院ともに積極的な取組推進により過去５年間で最多となった。また、手術件数について、附属病院では手術枠の効率的な運用等を行ったことにより、センター病院では生殖医療センターの改修にあわせて手術枠を見直したことにより、目標値を上回った。これらの実績から、中項目２はA評価とした。 ・【24】紹介割合、外来初診患者数はセンター病院で指標未達成となったが、逆紹介割合、新規入院患者数では附属病院・センター病院ともに指標を上回った。また、センター病院では【23】不妊治療件数が指標を上回る成果となり、あわせて病院全体の手術件数増にも貢献した。これらの実績から、中項目３はA評価とした。							

Ⅳ	法人経営			S	A	B	C	D	合計	自己評価
	1	経営改革を強力に推進するガバナンスの強化	【26】	0	0	1	0	0	1	B
	2	不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保	【27】～【29】	0	0	1	2	0	3	C
	3	コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立	【30】【31】	0	0	2	0	0	2	B
	4	教職員エンゲージメントの向上	【32】【33】	0	1	1	0	0	2	B
	5	ＹＣＵの価値向上	【34】～【37】	0	0	4	0	0	4	B
	6	課題解決を目指した地域社会との協働の推進	【38】	0	0	1	0	0	1	B
	7	医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進	【39】【40】	0	2	1	0	0	3	B
	8	環境への配慮や交流を意識したキャンパス作り	【41】【42】	0	0	2	0	0	2	B
	評価概要	・多くの指標を計画どおり達成した。 ・【28】寄附獲得額が昨年度に引き続き未達成となった（年度計画5億円→実績2億8,500万円）。また、「改革推進会議」を中心に大学部門の収入拡充・支出削減に向けた事業見直しを行うとともに、附属２病院では、病院長のマネジメントのもと経営改善に取り組んだが、令和６年度決算について法人全体で約15.2億円（経常損失）の赤字となった。これを踏まえて、中項目２はC評価とした。 ・【33】附属病院・センター病院で、医師の働き方改革を着実に進めた。離職率、配偶者の出産に伴う休暇の取得率は昨年度に引き続き未達成となったが、配偶者の出産に伴う休暇の取得率については積極的な休暇の周知等により前年度実績から25.4ポイント改善（R５年度53.8%→R６年度79.2%）した。新たに軽装勤務の通年化、時差勤務・テレワークの範囲拡大（大学部門）を実施し、エンゲージメント向上に資する取組を進めた。また、ストレスチェックの集団分析で、法人全体での総合健康リスクが昨年度より改善した。（主に上司・同僚の支援に関する項目が改善） これらの実績から、中項目４はB評価とした。							

Ⅴ	自己点検及び評価			S	A	B	C	D	合計	自己評価
	-	-	【43】	0	0	1	0	0	1	B
	評価概要	中期計画の周知と自己点検及び評価を計画通り実施したことを踏まえ、Ｂ評価とした。								
合計				1	12	37	3	0	53	-

■ 評価一覧

【評価基準】
Ｓ：計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある
Ａ：計画を上回って実施している
Ｂ：計画どおり実施している【標準】
Ｃ：計画を十分に実施していない
Ｄ：重大な改善事項がある

項目		評価書	実績報告書	自己評価	評価	評価の理由（優れた点・特色ある点・更なる充実が期待される点等）	原案
Ⅰ 教育	1. 新たな時代を見据えた教育の提供	p5	p8	B	B	横断的教育やグローバル教育の充実を図るとともに、AIの活用が進む中、研究倫理教育を充実していることを評価する。また、IRとFD・SDの連動を図っていることは注目され、看護学科のようにさらに高い受講率を全学的に実現することを期待する。	B（標準）
					B	研究倫理教育に関する取組みは、今、社会から求められており、評価できる。一方で、時代に即した教育としての、領域横断型プログラム修了者数があまり増えないのが残念。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標については概ね計画を上回っているがB評価の範疇と判断した。	
					B	―	
					B	―	
	2. 5学部6研究科における教育の充実	p5	p12	A	A	社会の要請に応え、理学部の定員増（令和8年度）を決定するとともに、データサイエンス学部・研究科の定員増（研究科令和7年度、学部令和9年度）に向けた教育体制整備を着実に進めていることを高く評価する。また、共通教養教育においてだけでなく、各学部におけるデータ関連教育の充実を進めている。	A
					A	学修者に寄り添った教育改革が着実に進み、SPRING事業など、大学院博士課程の学生への支援体制の充実も見られ、学生満足度も高い。理学部入学定員増は、教職協働がうまくいっていることを示している。	
					A	学生確保が難しくなってくる時代であるが理系を中心とした定員増を見据えた取り組みを行っている。次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）による支援が積極的にされている。	
					A	社会課題への対応人材の育成の観点から、データサイエンス・理系人材のニーズは高く、両分野の収容定員増への対応は評価できる。	
					A	理系人材の不足が懸念される中で、理学部の定員増は意欲的な試みと考える。あわせて理系女子学生の増加にも取り組まれることを期待する。	
	3. 時代に即した学修環境・学生支援の提供	p6	p18	B	B	学生の経済状況アンケートを踏まえた経済支援策の検討や「食の支援」など、経済的な課題を抱える学生への支援を推進していることは評価できる。さらに学生の定期健診率の向上を期待する。	B（標準）
					A	学生各自が行う目標設定や、学習成果などの可視化によって、学修者自身が主体となる勉学が可能となった。学修支援コンテンツとしての動画や資料のブラッシュアップも学生にとって大変有効。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標については概ね計画を上回っているがB評価の範疇と判断した。金銭面以外での困難な学生への支援、LGBTQについては施設整備の対応も必要と考える。	
					B	経済的な要因による離脱を最小限に抑えるため丁寧な対応が引き続き期待される。	
					A	定量的指標についてはいずれも目標を大きく上回っていることを評価する。	
	4. 多様で優秀な人材の獲得と輩出	p6	p22	B	B	受験生数や交換留学生数の増加や高い就職率等の維持を実現するとともに、低学年からのキャリア教育や留学生の就職支援、博士課程学生のキャリア支援など取組を広げていることを評価する。	B（標準）
					B	留学生就職支援教育プログラム認定制度など、外国人留学生への就職支援は、高く評価できる。一方で、次世代研究者挑戦的研究プログラムの活用など博士後期課程の学生へのキャリア支援の強化が望まれる。	
					B	より優秀な学力層の学生獲得の方法と成果の評価については具体的なものを示していただきたい。高大連携事業におけるオンラインを活用したプログラムについては大きく参加増となることを期待する。	
					B	前年度を上回る志願者を獲得した。キャリア支援においては定量項目をすべて達成した。	
					B	―	
	5. 社会人の学び直し	p7	p26	B	B	企業からの協賛金を得て新たな講座を開設しており、今後一層企業等と連携したリカレント・リスキリングの取組みの充実を期待する。	B（標準）
					B	企業から協賛金を募集して行ったアドバンストエクステンション講座は、デジタル人材育成への横浜市立大学の寄与を目的とするものとして評価できる。参加者の満足度も高い。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標については計画を大きく上回っているが個々での満足度評価は高くなりやすいと思われるためB評価の範疇と判断した。リカレント教育については受講者数増加の取り組みを推進していただきたい。	
					B	―	
					B	―	

項 目		評価書	実績報告書	自己評価	評価	評価の理由（優れた点・特色ある点・更なる充実が期待される点等）	原案
Ⅱ研究	1.先進的・学際的研究等の推進	p8	p27	B	B	主要学術誌等掲載論文数等が若干目標を下回るため、今後とも一層の研究推進を期待する。臨床研究については、次世代臨床研究センターの体制強化による拡充発展を期待する。	B（標準）
					B	Top10%論文数に関しては、もう少し頑張ってもらいたいが、産学連携による新プロジェクト等、戦略的な戦略も進めている。	
					C	各取り組みを着実に実行しているが、定量的指標において主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10%論文数で計画通りに進んでいない。	
					B	各種論文数未達となるも進捗率としては挽回範囲内。挽回に必要な手をうっているとの説明もあった。	
					C	病院の経営環境の悪化が大きく影響していることは理解できるが、大学病院に本来期待される使命を見失うことなく、バランスよく運営されることを期待する。	
	2.オープンイノベーションの推進	p8	p30	S	S	体制整備を進め、J-PEAKSの採択を実現したことは高く評価できる。新設の共創イノベーションセンター等を十分に活用して、オープンイノベーションの本格的な推進を期待する。	S
					S	オープンイノベション研究施設が竣工し、実質的な活動が可能になること、さらに「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の採択に至ったこと等を高く評価する。	
					A	「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」について採択に至った。	
					S	J-PEAKSの採択、研究成果の社会実装の観点からベンチャー創出累計数が目標指標を上回る。	
					S	研究活性化に向けて全学的取り組みのさらなる推進に期待する。	
	3.研究基盤の強化及び支援体制の整備	p9	p31	B	B	科研費の採択状況は順調であるが、より学際的な研究や規模の大きな研究への展開を進めていくことができるよう、支援体制の充実が望まれる。	B（標準）
					B	科研費採択件数、獲得金額とも、ほぼ予定通りの実績を上げている。しかし、若手研究者や女性研究者への支援、異分野融合研究等の促進に向けた「学術的研究推進事業」の効果がもう少し上がる施策を期待する。	
					B	定量的指標について概ね計画通りである。	
					B	—	
					B	—	
Ⅲ医療	1.患者本位の医療の提供と患者安全の取組	p10	p33	B	B	患者本位の医療のため、臨床倫理課題への対応力の強化、日帰り手術等の患者ニーズへの対応が進められている。医療安全や病床管理の最適化についても、データ分析、チーム力を活用しながら、取組の向上を進めている。	B（標準）
					B	臨床倫理コンサルテーションチーム活動によって、臨床倫理的課題に対する適切な対応が行われた。医療の質を可視化した臨床指標の使用は重要。	
					B	各取り組みを着実に実行している。新興感染症の迅速検査及び診療体制の構築については【附】検討を行った、計画的な施設・設備の改修については【附】老朽化した設備の更新計画を作成した、にとどまっている。	
					B	赤字は継続するものの収支改善。患者満足度指標もほぼ達成と評価できる水準。	
					A	厳しい経営環境にもかかわらず、マネジメント体制の強化を進められていることを評価する。	
	2.質の高い医療の提供	p10	p40	A	B	遠隔ICUについては、医師少数地域の病院との連携を今回実現し、今後一層この分野でのフロンティアを切り拓いていくことが期待される。また、臨床研究中核病院としての承認を目指し、一層の体制強化を期待する。外国人患者受け入れについても、JMIP認証を目指すなど、体制整備が進められつつあり、今後の取組の進展を期待する。	A
					A	両病院とも高い手術件数と緊急応需率。SD評価に臨床研究を加えるなど、研究者のモチベーション向上に努めた。センター病院は市内唯一の高度救命センターとして機能している。	
					A	【附】医師少数地域の医療機関支援として国際医療福祉大学病院（那須塩原市）との調整が完了し支援開始が決定したこと、高い救急応需率は計画を上回っていると考える。	
					A	定量3項目すべて達成。特に救急応需は過去5年間最多件数となり、高度救命救急センターとしての役割を果たし地域社会に貢献した。	
					A	医療を取り巻く環境が急激に悪化する中、社会の要請にしっかり応えていることを評価する。	
	3.政策的医療への貢献、地域医療の推進	p11	p44	A	A	両病院とも救急医療に積極的に取組んで高い救急応需率を実現していること、センター病院において多くの件数の不妊治療に取り組んでいることは高く評価される。また、地域の医療機関との連携も順調に進められている。	A
					A	定量的指標の値がほぼ想定より高くなっていることを評価。新Webサイト立ち上げ、及び広報機能の強化が効果を挙げている。	
					B	救急応需率、不妊治療件数、【附】新入院患者数について計画を上回っているが総合的にはB評価の範疇と判断した。	
					A	定量項目で若干の未達はあるもののほぼ達成。地域医療機関との機能分化に主体的に取り組んだ結果、逆紹介割合は達成。	
					A	医療を取り巻く環境が急激に悪化する中、社会の要請にしっかり応えていることを評価する。	
	4.明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	p11	p48	B	B	看護師・コメディカルの育成・活用の強化、そのための連携体制づくりを進めている。また、研修医の指導のための体制強化にも努めている。	B（標準）
					B	YCU-Nによる看護職のジェネラリスト育成計画の、コメディカルへの実施に向けた施策が待たれる。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標についても概ね計画通りである。	
					B	—	
					B	—	

項 目		評価書	実績報告書	自己評価	評価	評価の理由（優れた点・特色ある点・更なる充実が期待される点等）	原案
Ⅳ 法人経営	1. 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化	p12	p50	B	B	懸案となっていた理事長直轄の監査室の設置が実現したことを評価し、今後の機能発揮を期待する。	B（標準）
					B	理事長直轄の内部監査室の設置、ならびに内部通報制度が作られ、ガバナンス強化の基礎が出来上がったことを評価する。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標についても概ね計画通りである。	
					B	—	
					B	—	
	2. 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保	p12	p51	C	C	法人全体の改革会議やAIを活用した経営改善や、両病院の経営改善の戦略的取組などが進められているが、赤字決算となっており、大学部門も含めた多角的な課題分析や取組の強化が求められる。寄付金などの外部資金の獲得が十分でなく、今後百周年事業とも合わせ、理事長・学長も先頭に立ち、法人・大学全体・同窓会も含む幅広い取組を強化していくことを期待する。	C
					C	法人として厳しい財政状況にはあるが、研究DXにおける研究者データベースシステムの導入やWeb決済システムの運用開始は、評価できる。寄付金獲得額の見積もり額の設定方式を検討すべき。	
					C	各取り組みは着実に実行している。しかし、結果として経常利益はマイナスとなっており資金減となっている。AI等の活用推進については専属担当者の設置が必要と考える。	
					C	15.2億円の赤字決算。病院部門は赤字継続なるも収支改善。一方、大学部門は前年度比7億円の収支悪化、「外部資金のさらなる獲得」を掲げるが外部資金は前年度比▲3.2億、予算比1.0億未達となる。	
					C	—	
	3. コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立	p13	p55	B	B	コンプライアンスに関する意識啓発、通報窓口の見直し、リスク情報の収集・分析・提供などを進めていることは評価される。コンプライアンスやリスク・マネジメントについては、データ社会の進展などの変化による新たな課題も次々生じているところであり、一層経営の中核に位置づけて推進することが重要である。	B（標準）
					B	潜在的リスクへの対応としてリスクマップの更新を行ったことは、自己点検の仕組みの体系化に有効だと考える。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標についても概ね計画通りである。内部統制システムについては、ミス等の結果を共有するにとどめず、統制の評価と改善を行うことが必要である。	
					B	—	
					B	—	
	4. 教職員エンゲージメントの向上	p13	p57	B	B	働き方改革、特に病院における医師の負担軽減に向けての様々な取組を推進し、配偶者の出産に伴う休暇の取得率も改善していることを評価する。ただし、看護師をはじめとする離職率は高く、その原因分析と対策を強化することを期待する。	B（標準）
					A	重点項目の医師の勤務時間の上限規制が守られ、配偶者の出産に伴う休暇取得率など大幅に改善したのは評価できる。横浜市大のダイバーシティー推進が何を目指すのか、方針決定が必要かと思う。	
					A	男女共同参画推進、多様性を尊重した構成員支援、障害者配属、保育所利用の改善、医師の働き方改革、と様々な取り組みを情報共有にとどまらず具体的に実行している。離職率や配偶者産休については更なる改善を期待する。	
					B	教職員全体のエンゲージメント指標である「教職員意識調査」は本年度の実施はなく来年度実施の結果待ち。医師の働き方において、医師事務作業補助者数の指標達成の効果もあり時間外上限規制内で運用。	
					B	看護師の離職率抑制に向けた取り組みが重要と考える。	
	5. YCUの価値向上	p14	p61	B	B	百周年の機運醸成はまだ緒についたばかりだが、大学のプレゼンスの向上、内外の様々なステークホルダーとの連携強化や大学への支援の拡大にとって好機であり、この機会を十分に活用して発信強化や大学への支援の拡大につなげていくことを期待する。	B（標準）
					B	創立100周年記念事業は、本学の認知度を高めたり、寄付金を募ったり、重要な機会だと考えるので、特にSNSを使った広報戦略に力を入れるべきかと考える。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標についても概ね計画通りである。一方で、同窓会組織との連携や広報戦略について具体的な実績が明らかでない。教職員や学生といった内に対する取り組みも重要と考える。	
					B	—	
					B	定量的評価に馴染むかどうか若干疑問に感じる。	
	6. 課題解決を目指した地域社会との協働の推進	p14	p65	B	B	地域貢献センターの相談件数も増加し、認知度も高まりつつあるものと考えられ、コーディネート機能の一層の充実を期待する。	B（標準）
					B	地域貢献センターと大学をつなぐ仕組みとしての、コーディネーターの活用を、より有効にするための施策が必要かと考える。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標についても計画通りである。	
					B	—	
					B	—	

項 目		評価書	実績報告書	自己評価	評価	評価の理由（優れた点・特色ある点・更なる充実が期待される点等）	原案
Ⅳ 法人経営	7. 医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進	p15	p66	B	A	病院長のリーダーシップの下で様々な経営改善、連携強化の取組が進められていることを評価する。さらに共同化、人材育成・交流、情報共有などの面で取組が強化されることを期待する。再整備の基本計画策定時期が変更されているが、計画作成に向けては多角的に十分な検討が尽くされることを期待する。	A
					A	診療報酬の適切で確実な請求の実施、附属2病院間での、医薬品・試薬の合同入札等による経営改善がなされた事は評価できる。附属2病院間ならびに、医学部との連携強化も評価される。	
					A	診療報酬改善、経営指標の活用、合同入札や共同購入、2病院連携や人材確保のための交流など、取り組みを実際に進めており診療報酬については成果も得ている。再整備事業については慎重な対応を進めていると思われる。	
					B	—	
					B	両病院の統合に向けたビジョンが示されることを期待する。	
	8. 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり	p15	p69	B	B	留学生の増加に関しては、宿舎確保の努力とともに、レジデンスアシスタントやチューター等の交流促進体制の整備が進められつつあることを評価する。	B（標準）
					B	設備機器の省エネを予定通りに進めている。また、国際化を進めるための国際混在型留学生宿舎にむけて、レジデンスアシスタントの配置など、着実に準備を進めている。	
					B	各取り組みを着実に実行している。定量的指標についても計画通りである。施設・設備については計画的な修繕や取替更新が求められるが収支状況との関連も考慮する必要がある。	
					B	—	
					B	—	
Ⅴ 自己点検及び評価		p16	p71	B	B	着実に自己点検、必要な外部評価の実施や準備を進めているものと評価する。	B（標準）
					B	年度計画の自己点検・評価、第三者評価の実施、特に教職員とステークホルダーへの情報公開は大変重要で、評価できる。	
					B	各取り組みを着実に実行している。	
					B	—	
					B	—	
Ⅵ 地域貢献（横断的項目）【8】【9】【10】【11】【12】【14】【19】【21】【23】【24】【25】【35】【38】		p16	p20～p65	—	A	高い地域貢献意識を持ち、推進体制の整備にも努めながら、社会人教育の拡充、産官学連携やオープンイノベーションの強化、地域医療ニーズへの対応や地域医療体制の充実、地域課題への対応の取組を進めていると評価できる。	A
					A	高い研究業績だけでなく、学生教育、研究指導、生活指導などに実績をあげている。特にJ-PEAKSの採択は、オープンイノベ～ションの推進をもたらす。また、医療におけるDX推進など地域医療への貢献も高く評価できる。	
					B	【附】医師少数地域の医療機関支援として国際医療福祉大学病院（那須塩原市）との調整が完了し支援開始が決定した、救急応需率が高い水準にある、不妊治療件数増など2病院の貢献は大きい。一方で、高大連携事業におけるオンラインを活用したプログラムやリカレント教育については参加者数増となることを期待する。	
					A	社会課題の解決を担う優秀な人材の輩出で貢献。また、医療分野では、救急応需指標が示すように高度救命救急センターとしての役割を果たすとともに地域医療機関との機能分化などにも主体的に取り組んだ。	
					B	医療を取り巻く環境が急激に悪化する中、社会の要請にしっかり応えていることを評価する。	
Ⅶ グローバル展開（横断的項目）【2】【9】【10】【12】【14】【22】【36】【42】		p17	p10～p70	—	B	グローバル教育の充実に努め、留学生の受け入れの拡大や就職支援の充実、日本人学生の海外プログラム参加の拡大が進んでいることを評価する。また、病院における外国人対応体制の強化も進められており、地域の国際化にも様々な面で寄与しているものと考えられる。	B（標準）
					B	国際的で先進的な医科学研究がなされていることは高く評価できるが、卒業生や留学生の活躍の様子が見えにくい。また、国際都市としての横浜市との連携強化による、外から見えるグローバル展開施策が望まれる。	
					B	学生満足度（各種留学プログラム）が90%近くであり、交換留学や長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等の経験者数も計画を上回っている。	
					B	—	
					B	YOKOHAMAという国際的知名度の高さをもっと活用できるのではないかと考える。	

全体評価	
	教育研究、医療、地域貢献、法人経営にわたる多くの分野について、推進体制も整備して具体的な取組が着実に進みつつあると評価できる。大学・高専機能強化事業、COI-NEXT、J-PEAKSなど、大学関係の主要な国の事業も積極的に活用して、教育研究の充実を図っている。 経営面では、赤字からの転換が課題となっており、様々な角度からの課題分析による戦略の構築、教職・組織間の協働、外部との連携の強化などを一層進めていくことを期待する。
	本学の、時代に即した学生教育や学生支援の施策、ならびに、本学の先進的・学際的な研究業績の高さ、さらにまた、地域医療の担い手として、本学が市民に対して高いレベルの医療を提供していることは、大いに評価できる。特に、オープンイノベーション研究施設が竣工したこと、そして「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択された事により、本学のさらなる発展が大いに期待できる。 しかし、国際都市「横浜」の市立大学として、どのようなグローバル展開を目指すのか、その方向性について議論を重ね、方針に則った施策をとる必要があると考える。
	様々な取り組みを着実に実行している。特に、データサイエンス学部・研究科の収容定員増、理学部の入学定員増員を見据えた取り組み、次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）、医師少数地域の医療機関支援として国際医療福祉大学病院（那須塩原市）との調整が完了し支援開始が決定した、救急応需率が高い水準にあるなど優れている点が多く見られた。また、大学院進学、リカレント教育、YCU価値向上などの課題への取り組みについても今後強化することが期待できる。 これらの活動を維持するためには収支の改善は早急に行うべきである。中長期の収支計画、資金計画、投資計画を策定すること、より小さい単位や期間で目標にできる指標の設定を行うこと、収入支出の各項目についてゼロベースで改善余地がないか検討することが必要であると考える。特に、人件費比率の改善、委託費など必要経費の見直し、修繕計画の見直しは重要と考える。
	教育分野では社会課題の解決を担う優秀な人材の輩出で貢献、そのベースとなるデータサイエンス・理系人材の収容定員増へ取組んでいる。医療分野では地域医療の中心となり質の高い医療の提供に取組むとともに収支改善にも努力した。 課題としては赤字決算となった法人経営。病院部門は赤字継続なるも自助努力の範囲内で収支改善に取組んだ。一方、大学部門においては経費削減の余地は限られインフレによる経費増の継続が予見される中、対応として認識している「外部資金のさらなる獲得」が前年度比減、予算比未達には課題がある。
	急激な物価上昇とこれに対する診療報酬の対応不足という厳しい状況にも関わらず、収支の改善やマネジメント体制の強化に取り組まれたことは十分評価できると考える。 また研究力強化に全学的に取り組まれ、成果を上げつつあることも評価し、今後のさらなる発展に期待する。